

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月30日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530664

研究課題名（和文） ホームレス包括的アセスメントツール及び支援プログラムの開発的研究

研究課題名（英文） Developing A Homeless Comprehensive Assessment Tool and Support program

研究代表者

知念奈美子（CHINEN, NAMIKO）

京都大学・文学研究科・研究員

研究者番号：80455039

研究成果の概要（和文）：ホームレスを対象とした簡便かつ包括的なアセスメントシートを、ホームレスに雑誌販売の仕事を提供するストリートペーパー、ビッグイシュー日本（以下、BIJ）をフィールドに開発し、BIJの東京・大阪事務所にて販売者100名余のアセスメントデータ蓄積を行った。その後、地域におけるBIJ販売者の支援連携ネットワーク構築と並行して、スタッフ向けアセスメントトレーニングプログラムをマニュアルと共に開発した。

研究成果の概要（英文）：A brief, but comprehensive assessment tool for homeless is developed at a social enterprise called Big Issue Japan, the street paper company. Assessment data of more than 100 vendors from Tokyo and Osaka offices were collected. Organizing a support network for the vendors within the community followed. An assessment training program and manual for staff were developed as well.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：ホームレス、アセスメント、貧困、社会的排除、情報共有

### 1. 研究開始当初の背景

2009年時点において、ホームレス自立支援法に定義されたホームレスである野宿者は減少の可能性はあったものの、ネットカフェ難民と呼ばれるような定住所を持ってない、所謂広義のホームレスは刻々と増加を続けており、対応は国の急務であると考えられた。

NPO等さまざまな団体が諸事情を抱えたホームレス状態の人々への支援を行っていたが、そのような団体は往々にして人手不足に悩まされており、支援は合理性や効率性を欠

いたプロセスを踏んでいる場合が多かった。支援は、まず的確なアセスメントを基にしなければ、窓口のたらい回しなど、利用者にとって精神的、物理的負担が増し、適切な支援につながらずに再度路上生活に戻る可能性もあったため、多忙な現場での実用に耐えるアセスメントツールと、そのツールを軸にした支援プログラム構築が必要であると考えられた。

### 2. 研究の目的

本研究は、ホームレス者への支援方法及び支援結果を左右する包括的かつ簡便なアセスメントツールを、BIJ をベースに開発し、ニーズ調査の結果を踏まえた上で、販売者（含販売希望者）支援プログラムを整理・構築することを目的であった。支援プログラムには、スタッフによるインテーク、ケースマネジメント等の窓口的業務、リファール先として地域行政との連携、地域の医療機関との連携、地域における自己啓発やレクリエーション活動に関する社会資源の開発等を予定していた。

### 3. 研究の方法

本研究は芝野（2002）の修正デザイン・アンド・ディベロップメント（M-D&D）の手法を用いて4フェーズに渡って行った。フェーズⅠ「問題の把握と分析」では、包括的かつ簡便なホームレス・ニーズ・アセスメントツールであるCCH-COS日本語版を作成し、パイロット調査による信頼性・妥当性検討の上、BIJ販売者全数調査を実施した。全数調査により把握したニーズ傾向を踏まえ、BIJ及びBIFにおける支援プログラムの整理・構築の叩き台をデザイン（フェーズⅡ）、支援の実施、評価（フェーズⅢ）の上、BIJ全販売者及び利用者の支援のみならず、必要とするホームレス支援団体によるツール使用の普及（フェーズⅣ）を目指した。

### 4. 研究成果

2010年度はアメリカ・コロラド州の大規模なホームレス支援NPOであるColorado Coalition for the Homeless（以下CCH）とコロラド大学の研究者らが共同開発した住宅、就労・修学、制度活用、身体的健康、精神保健、薬物使用の6領域を7段階でアセスメントするCCH Consumer Outcome Scales（以下CCH-COS）をベースに、日本の支援制度の現状やビッグイシュー販売者の状況を取り入れ反映させたCCH-COS修正日本語版を開発した。日本におけるビッグイシュー販売者やホームレス者の心身及び生活の状況を把握できるツール開発を追求したため、尺度の文言の厳密な翻訳のみを問うのではなく、表現や選択肢の修正を行う結果となった。

続いてCCH-COS修正日本語版の信頼性及び妥当性の検証のため、CCH-COSオリジナル版の信頼性・妥当性検証の手続きに沿い、東京及び大阪のビッグイシューの販売者（含販売希望者）109名を対象に面接及び質問紙調査を実施した。その結果CCH-COS修正日本語版の記入やレビューは簡便ではあるものの、アセスメントする側に専門的知識や聞き取りの技能が要求される精神保健や身体的健康領域においての信頼性及び妥当性確保が課題として上がり、スタッフ・トレーニングの

重要性も浮き彫りになった。

2011年度は、CCH-COS修正日本語版を使用し、BIJ販売者の定期アセスメントを開始した。販売者のアセスメントデータ蓄積と平行して、当該ツールの課題である精神保健や身体的健康等の臨床領域におけるスタッフのアセスメント技術習得のためのトレーニングプログラムおよびマニュアル開発を中心に研究活動を行なった。トレーニングマニュアルの構成内容は、診断ではなくQOL阻害の程度を把握するというアセスメントの目的、聞き取りと観察による情報入手方法、支援目標設定、健康相談や医療機関へのリファール、障害年金活用等につなぐといったデータ利用方法、「QOL」や「慢性疾患」の説明等、用語の整理、そして疾患や障害の例を挙げたリストである。以上の内容と、実際のリファール可能な連携先をリスト化し、支援の流れが見えるように実用性を高める工夫も加えた。

トレーニングプログラムは、実際の事例を元に記入マニュアルを参照しながらシートを記入しながら、文言やアセスメント考え方、記入システムに慣れさせるまでを第一段階とした。この段階はいわば準備時期であり、スタッフ単独でも、グループでも行える。次の段階では、記入結果をもとに、グループによる事例検討を行い、互いの気づきを促進しながら、アセスメントの視点や着地点を共有する段階とした。

並行して、福祉・医療専門職による、ホームレス者の健康問題基礎知識の研修を実施することで、知識や技術のすり合わせを行うこととしています。

定期アセスメントについては、ビッグイシュー販売者だけでなく、販売とは関係なく支援を必要とするホームレス者への相談事業等も行っているビッグイシュー基金のスタッフが、現登録販売者全員の第1期アセスメントを開始し、年度内に9割程度の聞き取りを終えた。3ヶ月毎、最低でも半年毎の定期アセスメントをスタッフの職務に組み入れ、データ蓄積を継続した。

アセスメントトレーニングプログラムおよびマニュアルの叩き台は、ビッグイシュー基金大阪スタッフとの協働によって2011年度末時点で概ね完成した。

2012年度は、東京の事務所を中心に、蓄積データから、必要と考えられる地域の社会資源を掘り起し、新たな支援先との協力関係構築や、これまでの連携先とのネットワークの見直しを図った。このネットワーク見直しを機に、近年特に増加している若者ホームレスへの対応を視野に入れ、引きこもりやニート支援を行っているNPOや、児童養護施設入所児童や退所後の元児童の支援団体を含めた社会に適応することに困難を抱える若者支

援団体との連携を実施した。そのネットワークにおける個々の団体情報や、連携に関する情報を関東地域の他団体や情報を必要とする人々と共有するため、社会資源ブック作成作業を実施した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 知念奈美子、ホームレス保健医療福祉包括的アセスメントツールの開発過程—CCH-Consumer Outcome Scales 修正日本語版のビッグイシュー販売者における信頼性・妥当性の検討—、医療社会福祉研究、査読有り、Vol. 20、2012、pp. 37-50
- ② 知念奈美子、ホームレスワールドカップ2011 パリ大会参加報告、芦屋学園短期大学紀要、査読無し、第38号、2011、pp. 53-60
- ③ 知念奈美子、ドイツ・ミュンヘン市のストリートペーパー：「BISS—社会的困難の中にいる市民」紙の取り組み、芦屋女子短期大学研究紀要、査読無し、第37号、2011、pp. 33-44
- ④ 知念奈美子、コロラド州デンバー地域ホームレス支援事業の実態、芦屋女子短期大学研究紀要、査読無し、第36号、2010、pp. 103-114

[学会発表] (計4件)

- ① 知念奈美子、ビッグイシューにおけるホームレス包括的アセスメント記入マニュアルおよびトレーニングプログラムの開発的研究、日本社会福祉学会第60回秋季大会、2012年10月20日、関西学院大学上ヶ原キャンパス
- ② 知念奈美子、ホームレス保健医療福祉包括的アセスメント記入マニュアルおよびトレーニングプログラムの開発的研究、日本医療社会福祉学会第22回大会、2012年09月2日、同志社大学今出川キャンパス
- ③ 知念奈美子、ビッグイシュー販売者のニーズと特徴—ビッグイシュー東京の販売者および利用者の調査を通して—、日本社会福祉学会第58回秋季大会、2010年10月10日、日本福祉大学
- ④ 知念奈美子、ホームレス包括的アセスメントの開発的研究①—ビッグイシュー日本におけるソーシャルワークアセスメントの視点—、日本ソーシャルワーク学会第27回大会、2010年7月4日、明治学院大学

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

知念 奈美子 (CHINEN, NAMIKO)  
京都大学・文学研究科・研究員  
研究者番号：80455039

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：